

令和元年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との  
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

## 大学改革の動向と今後の教員養成

「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書」が締結されたのは、平成 14 年のことです。依頼、19 年にわたり活発な連携協力を進めてきています。その間、大学は法人化による中期目標・中期計画、大学改革加速期間、ミッションの再定義といった流れの中で、教員養成の一本化（人間発達環境課程の廃止、教育学研究科の教職大学院化など）を推進してきました。さらに最近では、平成 28 年の「国立教員養成系大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受けて、教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、さらに附属学校園改革を迫られてきました。こうした一連の改革は地元の教育委員会との連携なしには推進できるものではありません。今後も一層の連携強化が求められているところです。

令和 2 年には、高等教育のグランドデザイン、国立大学改革方針が打ち出されました。内閣主導・財務省主導と言われるもので、日本の国力・国際競争力・経済力強化を強く志向した大学改革が求められています。いわゆるベンチャー志向の起業家養成と特許等、産業界に直接貢献する開発研究が大学に求められてきています。香川大学においてもイノベーションデザイン研究所の設立、創造工学部への改組、自然科学・工学と人文社会科学とを融合させた大学院の新設を目指しています。これからの大学は、学長のリーダーシップに基づいた戦略的経営が求められています。大学の強みが何で、それを将来にどう活かすのか、それを学長及び大学の執行部が決めていくこととなります。

現在の寛学長は、香川大学教育学部が地域に根差していることに関しては高く評価してくれています。本学部の多くの卒業生が香川県の教育界で活躍していること、香川県教育委員会等との連携の中で多くの事業に取り組んでいることなどがその内実となっています。これらは、本教育学部の先輩たちが作り上げてきた仕組みの成果であると言えるでしょう。今、我々は、本学部の今後の発展のために、これまで以上に地域に求められる教育学部となることを目指していかねばなりません。その礎として、今後とも連携事業の推進を担っていきたいと思います。

令和 2 年 3 月

香川大学教育学部長

野 崎 武 司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、平成 28 年度に第 3 期「香川県教育基本計画」を策定し、「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、学力の育成やこころの育成、教員の指導力向上等を柱とした教育施策を積極的に展開しております。

このような中、平成 14 年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は 18 年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携協力しているところです。

これまで、香川大学の先生方には、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業、教員免許状更新講習等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただいたり、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道徳の教科化に向けた取組において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたり、県教育センター運営協議会においてご意見を頂戴したりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。昨年度からは、香川県全体の学力向上に向けて、香川県学力等調査結果分析検討会議において、学力・学習状況調査の結果分析並びに分析結果の有効活用について、ご指導をいただきました。また、「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」という文部科学省の委託を受けた新規事業において、事業の内容や研究の方向性を検討し、推進していくための実証研究委員会の委員になっていただき、ご指導・ご助言をいただいております。

また、坂出高校「教育創造コース」においては、今年度初めて卒業生を送り出すことができました。これまで、教育創造コースの生徒を対象に教育学部の教授による出前講座を実施していただいたり、附属坂出幼稚園・小・中学校・特別支援学校を訪問させていただいたりしました。そのような経験を通し、生徒は教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材が香川で育っていくと考えます。

香川県教育委員会では、平成 30 年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」をあげています。教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和 2 年 3 月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

# 目 次

## はじめに

大学改革の動向と今後の教員養成

香川大学教育学部長 野 崎 武 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工 代 祐 司

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

### 【概要編】

令和元年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧 ..... 2

### 【資料編】

[資料 1] 令和元年度公立学校インターンシップ実施要領.....10

[資料 2] 公立学校教員等の活用.....12

[資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として.....15

[資料 4] 大学教員の公立学校現場での研修制度.....18

[資料 5] 令和元年度香川県教育委員会免許法認定講習.....19  
(特別支援学校教諭)

[資料 6] 免許法公開認定講座.....20

[資料 7] 教員免許状更新講習.....22

[資料 8-1] 令和元年度管理職候補者研修会.....27

[資料 8-2] 教員研修連携プログラム.....28

[資料 9-1] 思考力等の育成モデル校事業.....30

[資料 9-2]	学習習慣形成モデル校事業	31
[資料 9-3]	学習意欲向上モデル校事業	32
[資料 9-4]	アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業	33
[資料 9-5]	幼児教育支援員派遣事業	34
[資料 9-6]	豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	36
[資料 10]	香川県学力等調査結果分析検討会議	37
[資料 11]	新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業	38
[資料 12]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	40
[資料 13]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	41
[資料 14]	学生ボランティア派遣事業	42
[資料 15]	豊かな人権感覚を育てる事業（学生ボランティア募集）	43
[資料 16]	第 18 回「未来からの留学生」を終えて	44
[資料 17]	令和元年度特別支援教育コーディネーター協議会	45
[資料 18]	香川 CST 事業	46
[資料 19]	英語ラボ・道徳ラボの取組	47
[資料 20]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	49
[資料 21]	ICT を利用した遠隔授業指導、遠隔教育相談	54

## 【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	57
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	58

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力  
に関する取り組み

概 要 編

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

### I 協議会関係

項 目	令和元年度実績	令和 2 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携協議会 (R2.2.13)</li> <li>○ 幹事会 (R2.1.31)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和元年度連携協議会について</li> <li>(2) 令和 2 年度連携事業計画について                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続連携事業について</li> <li>・その他</li> </ul> </li> <li>(3) その他</li> </ul> </li> <li>○ 専門委員会                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 1 回教員研修システム共同開発委員会 (R 元.7.11)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 小学校英語教科化に対応する認定講習 (中英 2 種) の継承について</li> <li>(2) 教職大学院を中心とする教員研修について</li> </ul> </li> <li>・第 2 回教員研修システム共同開発委員会 (R2.2.13)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 香川大学教育学部・教育学研究科と香川県教育委員会との連携による教員研修について</li> <li>(2) 連携教員研修にかかる申合せについて</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	連携協議会開催 (R3.2 予定)  ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 令和元年度実績報告書作成</li> </ul>	・ 令和 2 年度実績報告書作成	

## II 連携関係

### 1 教員養成に関するもの

項 目	令和元年度実績	令和2年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	<p>正規</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附特支 公立1校（参観）6月（1日間）</li> </ul> <p>特別</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附高小 公立小6校（実習）5・6月（10日間）</li> <li>・附坂小 公立小3校（実習）5月（10日間）</li> <li>・附高中 公立中4校（実習）5・6月（5日間）</li> <li>・附坂中 公立中1校（実習）6月（5日間）</li> </ul> <p>※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。</p>	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定）</li> <li>・ 参加者予定：35名（学部35名、院0名）</li> <li>・ 実施期間 令和2年2月～3月（5日程度）</li> </ul>	・継続実施	資料1
③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度教職実践専攻における実習連携協力校 17校の連携協力校（中学校4校、小学校13校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続実施</li> </ul> <p>33校の連携協力校 （県立特別支援学校2校、中学校10校、小学校20校、幼稚園1園）</p>	
④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退職校長（岡静子）、主任指導主事（仲西長代、伊賀由美子）</li> <li>・ 年間2期、1人20～25時間程度の講義</li> </ul> </li> <li>○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義</li> </ul>	・継続実施	資料2
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現職教員等3名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 佐藤盛子、大熊裕樹、久米重弥</li> </ul>	・継続実施	資料3
⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員が公立学校現場で研修 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修者（2名） 小方 直幸 准教授 高松市立亀阜小学校 北原圭一郎 講師 三木町立氷上小学校</li> </ul> </li> </ul>	・継続実施	資料4

## 2 教員研修に関するもの

項 目	令和元年度実績	令和2年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、H28.11 名、H29.10名、H30.10名、R1.10名) ・教職大学院学校力開発コース 3名 ・教職大学院授業力開発コース 6名 ・教職大学院特別支援 Co コース 1名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施 (令和2年度は6名の 予定)	
②教員免許状取得のための 研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月)への大学教員の 派遣等	・継続実施	資料5
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○ 小学校の現職教員が中学校教諭免許状(外国語 (英語))を取得するための免許法認定講習を 実施(6講座、7単位)	・継続実施	資料6
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 協力校研修の実施 ・附高中 6月下旬～7月上旬(7日間) ・受講者 中学校教諭1名 ・現場研修において、副校長、教頭、指導担当教 諭等が、教科指導、学級経営等について指導・ 助言	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修等、各種研修会の講師・助言者と して大学教員を派遣	・継続実施 ・教職大学院連携研 修講座を新設 し、希望研修講 座として5講座 を開設する予定	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名)	・継続実施	

⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	○ 教員免許状更新講習として必修講習 6、選択必修講習 16, 選択講習 70 の計 92 講座を開設	・教員免許状更新講習として必修講習 6、選択必修講習 19, 選択講習 70 の計 95 講座を開設する予定	資料 7
⑦教員研修連携プログラム (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当：県教委]  [担当：教育学部]	○管理職候補者研修会年 10 回のうちの 2 回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究Ⅰ」として実施 (大学教員が担当)  ○学校の危機管理研究Ⅰ (集中・1 単位) 8 月 2 日 81 名 (うち院生 12 名) 8 月 7 日 89 名 (うち院生 1 名)  ○学校の危機管理研究Ⅱ (集中・1 単位) 9 月 21 日 36 名 (うち院生 11 名) 10 月 26 日 36 名 (うち院生 11 名)	・継続実施	資料 8

### 3 調査・研究に関するもの

項 目	令和元年度実績	令和 2 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 学習習慣形成モデル校事業 ・ 学習意欲向上モデル校事業 ・ アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かな心を育てる事業	・継続実施 新学習指導要領に対応するため次のモデル校を検討中 ・ 思考力、判断力、表現力等の育成 ・ 主体的に学習に取り組む態度の育成 ・ 教育の情報化推進 ・ キャリア教育 ・ 小学校外国語	資料 9
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委]	○「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析に対する指導助言	・継続実施	資料 10
③実証研究委員会 (県教育センター) [担当：県教委]	○文部科学省から委託を受けた「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」の内容や方向性を検討し、推進していくための実証研究委員会での指導助言	・継続実施	資料 11

#### 4 事業に関するもの

項 目	令和元年度実績	令和2年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松北高、高松桜井高	・ 継続実施	資料 12
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 公開授業：6 講座で 5 校 9 人が受講 体験授業：3 講座で 20 校 165 人が受講	・ 継続実施	資料 13
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) (人権・同和教育課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 59 名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）に 59 名を派遣（R1. 12. 1 現在）	・ 継続実施	資料 14
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	
	○ 豊かな人権感覚を育てる事業	・ 継続実施	資料 15
④家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・ 継続実施	
⑤未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県教委後援） ・ 約 800 名が参加	・ 継続実施	資料 16
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・ 継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・ 継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開（1 名受講）	・ 継続実施	

<p>⑨特別支援教育体制整備推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門家チーム</li> <li>・ 巡回相談</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーター協議会</li> <li>・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体制整備の推進に関する指導・助言</li> <li>○ 学校（園）を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言</li> <li>○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義</li> <li>○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料17</p>
<p>⑩香川 CST 事業 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施</li> <li>○ CST 養成プログラムの実施</li> <li>○ CST 養成プログラムの修了認定</li> <li>○ CST 活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料18</p>
<p>⑪令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業 〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プログラム名：「教科化対応ラボによる教員の資質向上～英語ラボ、道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～」</li> <li>・ 今年度は、香川県教育センターとの連携で、教科化への対応を支援する内容を重視して、道徳ラボ研修会を3回、英語ラボ研修会を2回開催。</li> <li>・ 今年度の各研修会の内容を生かして、校内研修、個人研修等で活用できる教材を作成中。 令和2年2月末発刊、3月中旬配布予定 「小学校英語評価資料集」、「道徳ラボー校内研修の充実ー」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他県からも多数の参加があり、4年間の継続で1700名超の参加。</li> <li>・ 次年度も多様な形で継続実施を検討。</li> </ul>	<p>資料19</p>
<p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業 (高校教育課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座の実施（9回）</li> <li>・ グループ研究指導（3回）及び研究室訪問受け入れ</li> <li>・ 大学訪問の受け入れ（1回）</li> </ul> </li> <li>○ 附属学校における活動（計12回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 附属坂出小学校（6回）</li> <li>・ 附属坂出中学校（2回）</li> <li>・ 附属坂出幼稚園（3回）</li> <li>・ 附属特別支援学校（1回）</li> </ul> </li> <li>○ 教育創造コースの教育内容に関する検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続実施</li> </ul>	<p>資料20</p>
<p>⑬非認知スキル向上事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究指定幼稚園への指導派遣（体幹講座） 高松市立檀紙幼稚園（6回） 丸亀市立城辰幼稚園（2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業は継続実施であるが幼稚園への指導派遣は未定</li> </ul>	

⑭ICT を利用した障害理解、遠隔授業指導、遠隔教育相談 (担当：教育学部)	○遠隔教育相談 教育センター ○遠隔授業指導 附属坂出小学校の授業を遠隔で公開 (2回)	・継続実施	資料21
---	---	-------	------

## 5 その他

項 目	令和元年度実績	令和2年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委]	○ 令和元年度新規派遣 ※ ( ) は合計数 ・ 附属高松小 7 (27) ・ 附属高松中 4 (19) ・ 附属坂出小 3 (18) ・ 附属坂出中 3 (19) ・ 附属特別支援学校 2 (13) ・ 附属幼稚園 1 (5) 計 20 名 (101 名)	・継続実施	

# 資 料 編

## 令和元年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

## 1. 目的

令和2年3月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

## 2. 対象者

令和2年3月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

## 3. 参加人数

公立小学校	29名	公立中学校	5名
公立高等学校	1名	公立特別支援学校	0名

## 4. 実施時期・期間

令和2年2月～令和2年3月初旬の間で1週間（5日程度）

## 5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	香川県立高松南高等学校	2/10-2/17	1名
教育学部4年	丸亀市立飯山南小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	丸亀市立栗熊小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	丸亀市立富熊小学校	2/18-2/25	1名
教育学部4年	綾川町立昭和小学校	2/17-2/21	1名
教育学部4年	坂出市立東部小学校	2/17-2/21	1名
教育学部4年	坂出市立坂出小学校	2/17-2/21	1名
教育学部4年	坂出市立金山小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	三木町立氷上小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	さぬき市立志度小学校	2/25-3/2	1名
教育学部4年	小豆島町立池田小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	高松市立十河小学校	2/25-3/2	1名
教育学部4年	高松市立亀阜小学校	2/25-3/2	4名
教育学部4年	高松市立三溪小学校	2/3-2/7	2名
教育学部4年	高松市立鬼無小学校	2/25-3/2	2名
教育学部4年	高松市立新番丁小学校	2/17-2/21	3名
教育学部4年	高松市立香南小学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	高松市立栗林小学校	2/17-2/21	4名
教育学部4年	高松市立古高松南小学校	2/17-2/21	1名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	高松市立前田小学校	2/17-2/21	1名
教育学部4年	高松市立屋島中学校	2/17-2/21	1名
教育学部4年	高松市立紫雲中学校	2/25-3/2	2名
教育学部4年	東かがわ市立大川中学校	2/3-2/7	1名
教育学部4年	高松市立桜町中学校	3/2-3/6	1名

## 6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加  
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

## 7. 事前・事後指導

### (1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
  - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度），教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

### (2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

## 8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

## 令和元年度 第 1 期教育実践集中講座

## 魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。  
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 仲西 長代（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）  
 客員教授 伊賀 由美子（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）  
 客員教授 岡 静子（高松市立屋島小学校前校長）

## 【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月18日(土) (13:00~17:00)	321 講義室	<講義・演習> (仲西・伊賀) 【教育法規】Ⅰ「教員になる①(仲西)」 「教員になる②(伊賀)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (佐藤(盛)・久米)
5月20日(月) (10:30~12:00)	教授法 演習室	<講義・演習> (伊賀) 【教職理解】 「教職の魅力 教職とは」	「教職概論(口)」の 講義として行う。 (山田(貴))
5月20日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
6月 1日(土) (13:00~17:00)	321 講義室	<講義・演習> (仲西・伊賀) 【教育法規】Ⅱ「教員になる③(仲西)」 「教員になる④(伊賀)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (佐藤(盛)・久米)
6月17日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習> (伊賀) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の 講義として行う。 (毛利)
7月 8日(月) (14:40~16:10)	教授法 演習室	<講義・演習> (伊賀) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(イ)」の 講義として行う。 (櫻井)
7月15日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月22日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月24日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習> (仲西) 【子ども理解】 「附属学校参観の心構え」	「教育実践プレ演習」 の講義として行う。 (松下)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL : 087-832-1683

## 令和元年度 第2期教育実践集中講座

# プロの教師とは何か？

## ～教師になるあなたへのエール～

【趣 旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担 当】客員教授 仲西 長代 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)

客員教授 伊賀 由美子 (香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事)

客員教授 岡 静子 (高松市立屋島小学校前校長)

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
10月18日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(伊賀・岡) 【教育課題の探究】 「いじめと体罰」(伊賀) 「教員としての倫理観」(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
11月11日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論(口)」 の講義として行う。 (毛利)
11月13日(水) (13:00~16:30)	611 講義室	<講義・演習>(仲西・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」 シンポジウム・助言	「教育実践演習A」 (教育実習事後指 導)の講義として行 う。 (山岸)
11月14日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(仲西) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校の事例を中心に」	「生徒指導・進路指 導論」の講義として 行う。 (毛利)
11月18日(月) (8:50~10:20)	422 講義室	<講義・演習>(伊賀) 【教職理解】 「学校について理解しよう④(中学校)」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
11月18日(月) (18:00~19:30)	611 講義室	<講義・演習>(仲西) 【教育の最新情報】 「教職への道Ⅰ」	「教職の総合的研究 (口)」の講義として 行う。 (久米・佐藤(盛))
11月22日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(伊賀・岡) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 中学校(伊賀)・小学校(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
11月25日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教職理解】 「教職を知る② ～心に残る教師と伸びる教師～(仮)」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)

11月28日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導の実際」	「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利)
12月2日(月) (18:00~19:30)	611 講義室	<講義・演習>(伊賀) 【教育の最新情報】 「教職への道Ⅱ」	「教職の総合的研究(口)」の講義として行う。 (久米・佐藤(盛))
12月11日(水) (10:30~12:00)	422 講義室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義として行う。(櫻井)
12月16日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(仲西) 【教職理解】 「授業について考える よい授業とは・よい保育とは」	「教職概論(イ)」の講義として行う。 (松下)
1月14日(火) (13:00~14:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(伊賀) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(口)」の講義として行う。 (櫻井)
1月20日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(口)」の講義として行う。 (毛利)
1月20日(月) (18:00~19:30)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教育の最新情報】 「教師を目指しているみなさんへ」	「教職の総合的研究(口)」の講義として行う。 (久米・佐藤(盛))
1月27日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(口)」の講義として行う。 (毛利)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

## 香川大学教育学部の専任教員として ～17年目の取組と今後の展望～

佐藤盛子・久米亜弥・大熊裕樹

## 1 17年目の活動内容 &lt;資料3-2参照&gt;

## 2 今年度の取り組みの重点

## (1) 学校現場に即した授業の充実

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。この枠組みを使って交流人事教員の教職支援をまとめたものが、図1の「4か年を見通した教職支援」である。

「授業実践論」では、教員として求められる基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえたうえで学習指導案を作成し、模擬授業や授業後の討議を行う他、論作文作成を通して教育への見方・考え方を深める等、より実践的な授業研究の在り方について講義した。本授業は、交流人事教員の3名が中心となり指導に当たっているが、今年度は教育学部長の呼びかけで「教職セミナー」との連携を深めることができ、学部教員全員が集団活動や模擬授業等の指導を行った。また、3年生後期の「教職の総合的研究（ロ）」では、授業内容を「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）の内容と関連付け、学校現場で活用できる教職の基本的内容の習得に向けての指導に努めた。今年度は、4月から教職に就く4年生が毎回30名ほど参加し、後輩の指導を行ったことで、先輩・後輩の絆が深まるとともに3年生の教職への意欲を大いに高めることができた。また、4年生にとっても教員としての心構えを学ぶ良い機会となった。また、ほとんどの4年生や教員を目指す他学部生が受講する「教育法規入門」では、基本的な教育法規（教基法、学校法、地公法、教特法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、教育関係法規について理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。この授業でも、授業内容や客員教授との連携の在り方を見直すことで、授業の質を高めることができたと考えている。

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	学校理解		子ども理解		授業理解		教職理解	
授業	大学入門ゼミ 教職概論(ロ)	教職概論(イ)	教育実践プレ演習 教育学チュートリアルⅠ 教育学演習ⅠA 学校教育課程論A	初等授業研究 生活科授業研究 教育学演習ⅡB 学校教育課程論B	教育実践演習 教育学演習ⅡA 教育学チュートリアルⅡ	教職の総合的研究(ロ) 教育学演習ⅡB	授業実践論 教育学演習ⅢA 教育法規入門	教職実践演習 教育学演習ⅢB
就職セミナー				就職ガイダンス		就職ガイダンス 筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前セミナー 公立校インターンシップガイダンス
その他	教育相談	採用試験説明会		採用試験説明会		教職自主サークル採用試験説明会	教職自主サークル採用試験説明会	→

【図1 4か年を見通した教職支援】

…交流人事教員が中心となる

また、教職大学院においては、大熊が他の教職大学院教員と連携しながら授業での指導にあたっている。「道徳授業の実践研究」の授業では、話し合いや書く活動等、道徳科に生かす多様な指導方法について、具体的な実践事例をもとに、その長所や配慮事項を確認するとともに、道徳科におけるより効果的な表現活

動のあり方について講義している。また、院生が行った道徳の模擬授業では、教材づくりや進め方等の点で助言を行っている。また、「授業力開発実習」では、指導を担当する現職教員院生の研究テーマに基づいて置籍校での研究実践授業に関わり、教材研究のあり方や具体的な授業づくりについて、授業実践後のリフレクション等で指導している。さらに、「教職実践研究」では、院生の研究テーマに関連した先行研究や実践事例を紹介したり、院生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたり、研究の上で疑問に感じたことを解決に導いたりする等の指導・助言を行っている。以上のような指導を行い、教職大学院のテーマ「理論と実践の往還」の実現に努めている。

## (2) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めてきた。地域ブロック研修会での講師、研究大会に向けての指導助言者として、県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。また、4年生が実地研修として参加した香小研高松支部教科研修会においては、各教科部会や学校と事前の連絡調整を行った。

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行った。学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒への関わり方等の相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加等、学生が様々な体験の中で学ぶことができるよう配慮しながら指導に努めている。

## (3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート～教職自主サークルと教育相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別教育相談」（教員の空き時間等）等を通して学生を支援している。「教職自主サークル」は、教員採用に向けた学生の自主的な勉強会で、教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっており、交流人事教員3名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。活動内容として、集団討論や模擬授業、場面指導等の演習をはじめ、各自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務め、教員採用選考試験だけでなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するか等、教員としての心構え等の助言も行っている。さらに、8月には教員採用選考試験二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を実施し、先輩教員25名学生約80名の参加があった。さらに11月には、教職2年目の卒業生から、教職の実践について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職の総合的研究(ロ)」とタイアップして実施した。3年生を中心に、約130名の参加があった。



## (4) 学外との連携

10月13日(日)、「未来からの留学生(教育学部フェスティバル in 香大)」において「おんどくリンピック」や「ブロックで遊ぼう!」の講座を開設して、学生と子どもたちがふれ合った。教育実習等とはまた違った環境の中で子どもたちとふれあい、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもに遊び方を伝えるための語りかけ方を学ぶ等よい機会となった。各講座の事前準備において交流人事教員も助言を行い、学生を支援した。また、「おんどくリンピック」、「ブロックで遊ぼう!」の両講座とも、3年生を中心に1年生の学生も企画運営に携わった。それぞれの役割を通して、子どもたちへの関わり方について学ぶ貴重な機会となった。



## 3 今後の課題

現体制(学部担当2名、教職大学院1名)での取組が始まり4年目となり、交流人事教員の大学との関わり

方は大きく見直され、授業の質を高めつつ、更なる効率化を目指しているところである。平成 29 年度から授業科目・内容・体制等について見直しが進められ、さらに今年度新たなシステムを構築している最中である。その中心は、授業として位置付けられている「授業実践論」、「教育法規入門」、「教職の総合的研究」、「教育学演習ⅡA・B」、「教育学演習ⅢA・B」と、授業外の「教職ガイダンス・セミナー」、「教職自主サークル」である。交流人事教員はもとより、教育学部の教員を含めての授業科目の再編と、学生の自主的な活動の精選を行い、無理なくしかも効果的な教員養成における支援の在り方を模索している。

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの教職経験から、教員という仕事の魅力ややり甲斐について学生に伝えるとともに、その技能を高め、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。そのために、学生の自主的な活動をサポートし、より教育現場に即した内容を今後も提供していくとともに、大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上にしっかりと取り組んでいく所存である。

資料 3 - 2

## 1 7年目の活動内容

### 1 学内における活動

#### (1) 委員会等

- <佐藤> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー
- <久米> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー、
- <大熊> 学生支援専門委員会、未来からの留学生アドバイザー、教職大学院専攻委員

#### (2) 授業等

<佐藤> 大学入門ゼミ、生活科授業、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究(ロ)、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、学校教育実践研究、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査

<久米> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A、教職概論イ、授業実践論、教育法規入門、教育実践演習、特別教育実習A、就職セミナー、教職自主ゼミ、

<大熊> 【教職大学院】指導法分析と学習支援、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、教材開発の理論と実践、授業研究の実際、道徳授業の実践研究、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】学校教育課程論A、教職概論イ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論、教育実践演習、学校教育課程論A、就職セミナー、教職自主ゼミ、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイダンス

#### (3) その他

<佐藤> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

<久米> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当

<大熊> 未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

### 2 学外における社会的活動

<佐藤> (委員等) 香川県がん教育推進委員(講演等) 高松市総合教育センター道徳教育研修会講師(市単独)(2019.08)、高松市授業力向上推進委員会指導者(2019.10)、高松市立太田南小学校研道徳研修会講師(2019.10)、初任者研修会講師(2020.01)、香川県がん教育推進委員会指導・助言(2020.1)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2018.04,06)、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会講(2019.10)、松楠会大川支部教育講演(2019.08)(その他)、「小さな親切」運動作文(審査)(2019.09)、大学入試センター試験等(監督・委員)

<大熊> (講演等) 香川県教職員連盟講師部会研修会講師(2019.05,08)、綾川町立滝宮小学校 学校保健委員会講師(2019.06)、坂出綾歌国語同好会研修会(2019.06)、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会講(2019.09)、(その他)読売新聞作文コンクール審査(香川県)(2019.08)、「小さな親切」運動作文(審査)(2019.09)、放送大学面接授業講師(2019.11,12) 大学入試センター試験(監督)

## 大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

令和 1 年度は、教育学の小方直幸教員、国語教育の北原圭一郎教員が高松市立亀阜小学校、三木町立氷上小学校で 2 日間の研修に取り組みました。

### 研修を行った大学教員

准教授	小方 直幸（教育学）
研修校	高松市立亀阜小学校
研修日	令和 2 年 1 月 14 日（火） 1 月 15 日（水）
講 師	北原 圭一郎（国語教育）
研修校	三木町立氷上小学校
研修日	令和 1 年 12 月 9 日（月） 12 月 10 日（火）

## 令和元年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

## 1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

## 2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日(曜日)
講義 I	聴覚障害者の教育課程及び指導法	70名	8月6日(火)・7日(水)
講義 II	知的障害者の教育総論	75名	8月21日(水)・22日(木)
講義 III	視覚障害者の心理・生理及び病理	59名	8月24日(土)・25日(日)
講義 IV	重複・発達障害者の教育総論	50名	8月31日(土)・9月1日(日)
講義 V	肢体不自由者の教育総論	61名	9月14日(土)・15日(日)

## 3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

## 4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 II	8/22	知的障害者の教育総論	教授 武藏 博文
講義 III	8/24・25	視覚障害者の心理・生理及び病理	教授 惠羅 修吉
講義 IV	8/31・9/1	重複・発達障害者の教育総論	教授 武藏 博文 教授 小方 朋子

## 香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）平成31年度

・ 文部科学省委託事業(平成31年度小学校外国語教科化に対応した外部人材活用促進等のための講習の実施事業)として6講座(7単位)を開設した。

## (1) 実施状況（講座別受講者数）

全体

講座名	実施日	単位数	受講者所属都道府県 (人)				
			香川	愛媛	岡山	大阪	計
生徒指導・進路指導論	9/1, 9/8	1	12			1	13
英語科教育法概説	8/24-25, 9/21-22	2	11	1	1	1	14
英文法概論	10/19-20	1	13				13
英米文学史概論	12/21-22	1	10	1		1	12
英会話基礎	7/13, 7/21	1	12			1	13
日英のことばと文化	9/15-16	1	8				8
		計	66	2	1	4	73

受講年度別

講座名	実施日	単位数	受講開始年度	受講者所属都道府県 (人)					
				香川	愛媛	岡山	大阪	小計	計
生徒指導・進路指導論	9/1, 9/8	1	H28-30	5			1	6	13
			H31	7				7	
英語科教育法概説	8/24-25, 9/21-22	2	H28-30	5	1	1	1	8	14
			H31	6				6	
英文法概論	10/19-20	1	H28-30	4				4	13
			H31	9				9	
英米文学史概論	12/21-22	1	H28-30	1	1		1	3	12
			H31	9				9	
英会話基礎	7/13, 7/21	1	H28-30	3			1	4	13
			H31	9				9	
日英のことばと文化	9/15-16	1	H28-30	1				1	8
			H31	7				7	
		計		66	2	1	4	73	73

## (2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県 (人)				
	香川	愛媛	岡山	大阪	計
7	1				1
6	4				4
5	4			1	5
4	2				2
3	4	1			5
2	1		1		2
1	4				4
0	1				0
計	20	1	1	1	23

\*1講座しか申込みをしなかったが、当日欠席された。

香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）平成28～30年度

・ 文部科学省委託事業(小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業)を、平成28～30年度受託・実施し、毎年13講座(14単位)を開設した。

・ 3年間で、香川県内から67名の受講者があり、うち32名が免許状取得に必要な14単位を取得した。

(1) 講座別受講者数

講座名	単位数	受講者所属都道府県 (人)																				
		香川	徳島	愛媛	高知	鳥取	岡山	広島	栃木	東京	神奈川	福井	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分	宮崎	計
生徒指導論	1	44			1	1	2	1			1		2	1	4	1		1	1			60
学校教育相談学	1	46			1	1	2		1				1	4	1		1	1		1		60
英語科教育法概説	2	41	1	1	1	1	2	1		1		2	1	5	1	1	2					61
英文法概論	1	46		1	1	1	2	1				2	2	6	2	2	1					67
英語史概論	1	49		1	1	1	2		1	1			2	5	3	1	2					69
英語音声学概論	1	52			1	1	2	1					2	7	2	1	2			1		72
英米文学史概論	1	53			1	1	2					1	1	5	2	2	2			1	1	72
英語圏児童文学	1	52			1	1	2		1			1	3	2	6	4	2	3	1		1	80
英会話基礎	1	55		2	1	1	2	1				1	1	3	1	1	2	1				72
英作文基礎	1	47	1	2	1	1	1	1		1			2	5	2	2	2					68
日英のことばと文化	1	51			1	1	2	1	1			2	2	5	3	1	3	1				74
異文化コミュニケーション論概説	1	46	1	2	1	1	2	1		1			1	6	3	1	3					69
異文化理解概説	1	50			1	1	2	1		1		2	1	5	1	1	2	1				69
計		632	3	9	13	13	25	9	2	2	6	1	15	19	66	26	15	26	6	2	3	893

(2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県 (人)																				
	香川	徳島	愛媛	高知	鳥取	岡山	広島	栃木	東京	神奈川	福井	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分	宮崎	計
14	32			1	1	1				1			1				1				38
13	1														1						2
12	3					1								1							5
11	1													1			1				3
10	1						1							1							3
9	2													1		1					4
8	5											1		1							7
7	3													1	1	1					6
6	4		1										1					1			7
5	4											1	1	1							7
4	1												1								2
3	3		1														1				5
2	5	2						1				1		1					1	1	12
1	2		1						2		1	2		2	1					1	12
計	67	2	3	1	1	2	1	1	2	1	1	5	2	11	4	2	3	1	1	2	113

## 香川大学教員免許状更新講習

## 1. 平成31年度 実施状況

## ■ 平成31年6月～10月 開講

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習は延べ数)
必修講習	6	915	667
選択必修講習	16		623
選択講習	70		1,848
廃止講習	7	合計	3,138

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月8日(土)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	29	29
	【選択】国語表現演習	佐藤 明宏	29	29
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	青山 夕夏	10	10
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	29	29
	【選択】子どもたちと学びの空間を開く教師の身体性について考える	西岡 けいこ	10	10
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	朴 恩芝	33	33
	【選択】農業経済学	武藤 幸雄	10	10
	【選択】海洋生物生産のための環境学	山口 一岩	11	11
6月9日(日)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	清國 祐二	95	95
	【必修】1)教育の最新事情	山岸 知幸 岡田 涼	120	120
	【選択】日本近代文学に於ける「子ども」	渡邊 史郎	21	21
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	松島 充	28	28
6月22日(土)	【選択必修】道徳教育の充実1	植田 和也	48	48
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	34	34
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	21	21
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	妹尾 理子	13	13
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	朴 恩芝	38	38
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	惠羅 修吉	51	51
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える1	吉川 暢子	32	32
	【選択必修】教育相談はじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	林 智一	38	38
6月23日(日)	【選択】心理学からみた学習意欲1	岡田 涼	37	37
	【選択】植物の進化研究の最前線	篠原 渉	13	13
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	石川 雄一	15	15
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応1	肥塚 肇雄	60	60
	【選択必修】発達障害と教育相談	武藏 博文	28	28
7月6日(土)	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	松島 充	7	7
	【選択】心理学からみた学習意欲2	岡田 涼	38	38
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	石川 雄一	19	19
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習1	笠 潤平	16	16
	【選択】英文法を考える	永尾 智	19	19
	【選択】哲学教育と子ども哲学	三宅 岳史	8	8
7月13日(土)	【必修】2)教育の最新事情	櫻井 佳樹 坂井 聡	155	155
7月15日(月)	【選択】プログラミング言語の最新動向	香川 考司	8	8
8月1日(木)	【必修】3)教育の最新事情	松井 剛太 大久保 智生	153	153
8月3日(土)	【選択必修】教育相談場面における傾聴技法	高田 純	39	39
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	11	11
	【選択】消費行動と生活経営	時岡 晴美	22	22

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月4日(日)	【選択必修】小学校英語、指導と評価の実際1	齋藤 嘉則	24	24
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える2	吉川 暢子	32	32
	【選択】ことばについて考える -日本語の音声を中心に-1	轟木 靖子	20	20
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応2	肥塚 肇雄	52	52
8月6日(火)	【必修】4)教育の最新事情	山岸 知幸 有馬 道久	101	101
8月8日(木)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	山田 俊介	40	40
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える1	片岡 元子	25	25
	【選択】社会と歴史の教育1	鈴木 正行	37	37
	【選択】地球とその歴史を探索1	寺林 優	14	14
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	神原 憲治/野口 修司 川人 潤子	47	47
	【選択】一次救命処置と、認知症高齢者の家族への対応	大森 美津子/西村 美穂 森河 祐季/市原 多香子 /大西 敏美	28	28
	【選択】糖と健康-希少糖の奇跡-1	高田 悟郎	26	26
8月9日(金)	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	27	27
	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在	バテン ポール	36	36
	【選択】社会と歴史の教育2	鈴木 正行	21	21
	【選択】株式会社の設立と運営	溝渕 彰	31	31
	【選択】就職先の企業選択の指標1	三好 祐輔	8	8
	【選択】外国人児童生徒とことばについて考える	山下 直子	15	15
8月10日(土)	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	146	146
8月19日(月)	【必修】5)教育の最新事情	柳澤 良明 山本 木ノ実	75	75
8月21日(水)	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	高橋 亨輔 井面 仁志	19	19
	【選択必修】授業の情報化に伴うデータの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	28	28
	【選択】ことばについて考える -日本語の音声を中心に-2	轟木 靖子	20	20
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	15	15
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	小森 博文 高木 由美子	10	10
	【選択】職業教育を考える	山田 貴志	6	6
	【選択】特別支援教育	西田 智子	78	78
	【選択】西欧の歴史学	唐澤 晃一	18	18
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える2	片岡 元子	21	21
8月22日(木)	【選択】地球とその歴史を探索2	寺林 優	13	13
	【選択】就職先の企業選択の指標2	三好 祐輔	10	10
	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり1	野崎 武司	48	48
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	宮武 伸行	48	48
	【選択】生活習慣病と感染症の予防医学講座	峠 哲男/筒井 邦彦 藤井 豊	62	62
	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	22	22
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	北林 雅洋	8	8
9月1日(日)	【選択】数学-中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	20	20
	【選択】糖と健康-希少糖の奇跡-2	高田 悟郎	30	30
	【選択必修】道徳教育の充実2	植田 和也	34	34
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境2	妹尾 理子	14	14
9月8日(日)	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	惠羅 修吉	51	51
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法)	東浦 亜希子	10	10
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	29	29
	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩-いじめ・不登校を中心に-2	林 智一	36	36
9月15日(日)	【必修】6)教育の最新事情	毛利 猛 橋本 忠行	63	63
9月21日(土)	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり2	野崎 武司	40	40

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
10月6日(日)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	清國 祐二	80	80
	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	21	21
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	宮本 賢作	50	50
	【選択】表現を探る -楽曲の分析を通して-	岡田 知也	10	10
	【選択】中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活	宮島 美花	9	9
	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	高野 啓児	10	10
10月12日(土)	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう!→考えてみよう!→やってみよう!	松下 幸司	22	22
10月20日(日)	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習2	笠 潤平	14	14
10月27日(日)	【選択】ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	16	16
計			3,138	3,138

▶ 廃止講習(一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習)

8月10日(土)	【選択必修】小学校英語、指導と評価の実際2
8月21日(水)	【選択】ナノテクノロジーと電子材料
8月22日(木)	【選択】中・高等学校家庭科食物分野内容の実験による検証
9月1日(日)	【選択】中国古典解釈における漢学と宋学
9月1日(日)	【選択】天然物ケミカルバイオロジー
10月5日(土)	【選択】福祉経済論
10月6日(日)	【選択】幾何学的不変量の計算と応用

▶ 県別受講状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
香川	578	531	523	569	850	1,048	853
(県外)							
徳島	7	10	12	14	15	15	13
愛媛	24	17	26	22	27	17	16
高知	3		7	4	2	3	3
島根			1	2		1	
岡山	1	4	15	12	23	12	15
広島		1	3	3	6	1	2
鳥取				1			1
山口				2			
その他	6	19	13	9	17	15	12
小計	41	51	80	69	90	64	62
合計	619	582	603	638	940	1,112	915

▶ 年度別受講状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
受講申込者数	561	717	585	619	582	603	638	940	1,112	915
必修	473	571	482	497	489	482	553	676	878	667
選択必修							536	665	840	623
選択(延べ)	1,341	1,563	1,333	1,479	1,357	1,290	1,365	1,843	2,144	1,848

## 2. 令和2年度 実施計画

(令和2年6月～10月)

	講習数	定員
必修講習	6	750
選択必修講習	19	784
選択講習	70	2,201
合計	95	3,735

※応募人数が5名に満たない場合は講習を廃止することがあります。日程等は変更する場合があります。

令和元年12月現在

開設期間	講習名	定員	対象職種
6月13日(土)	【選択必修】教育相談はじめての第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	40	教, 養, 栄
	【選択】国語表現演習	30	教
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	25	教
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	12	教
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	32	教
6月14日(日)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	40	教, 養, 栄
	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	20	教, 養, 栄
	【選択】篆刻—印章の制作—	24	教
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	30	教, 養
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	30	教
6月21日(日)	【選択】教育にも適用可能な経営学の理論1	40	教, 養, 栄
	【必修】1)教育の最新事情	120	
6月27日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	50	教, 養, 栄
	【選択】教育にも適用可能な経営学の理論2	40	教, 養, 栄
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法1	30	教
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	35	教
6月28日(日)	【選択必修】教育相談はじめての第一歩—いじめ・不登校を中心に—2	40	教, 養, 栄
	【選択必修】初心者に向けた小学校におけるVisual Programmingを用いたプログラミング教育	10	教, 養, 栄
	【選択】少年非行・犯罪の現状と少年法2	30	教
	【選択】心理学からみた学習意欲	40	教
7月4日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談1	30	教, 養, 栄
	【選択】現代日本の選挙と政治1	30	教
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法)	12	教
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	50	教, 養, 栄
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	20	教
7月5日(日)	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	30	教
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	30	教, 養, 栄
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	15	教
	【選択】西洋史	30	教
7月12日(日)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	20	教
	【選択】歴史学	30	教
7月19日(日)	【必修】2)教育の最新事情	140	
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	30	教, 養, 栄
8月1日(土)	【必修】3)教育の最新事情	150	
8月8日(土)	【選択】はじめての特別支援教育	100	教, 養, 栄
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	130	教, 養
	【選択】摂食障害から現代的課題を考える1	36	教, 養, 栄
8月9日(日)	【選択必修】カウンセリングマインドを活用した教育相談の方法1	40	教, 養, 栄
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	16	教
	【選択】外国人児童生徒と言葉について考える	15	教, 養, 栄
	【選択】社会と歴史の教育1	40	教
8月10日(月)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	40	教, 養, 栄
	【選択】社会と歴史の教育2	40	教
	【選択】からだでこころで感じて動く表現の世界	25	教

開設期間	講習名	定員	対象職種
8月10日(月)	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり	50	教
	【選択】摂食障害から現代的課題を考える2	36	教, 養, 栄
8月18日(火)	【必修】4)教育の最新事情	140	
	【選択必修】カウンセリングマインドを活用した教育相談の方法2	40	教, 養, 栄
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境2	16	教
	【選択】幼稚園教諭の転換点について考える	25	教
	【選択】地球とその歴史を探索1	15	教
	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	25	教
	【選択】最新バイオテクノロジー：体験！ゲノム編集技術	30	教
	【選択】家畜や野生動物のための栄養学	40	教, 養, 栄
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	50	教, 養, 栄
	【選択】生きる意味への問いに対する関わり：スピリチュアルニードの理解	50	教, 養, 栄
8月20日(木)	【必修】5)教育の最新事情	120	
	【選択必修】授業の情報化に伴うデータの可視化とプレゼンテーション	30	教, 養, 栄
8月22日(土)	【選択必修】学校に「かえす」心理学	150	教, 養, 栄
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	30	教, 養, 栄
	【選択】地球とその歴史を探索2	15	教
8月23日(日)	【選択】化学物質を介した植物間の相互作用	40	教
	【選択必修】英語科教育概論	20	教, 養, 栄
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	20	教
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	30	教
9月5日(土)	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する1	12	教, 栄
	【選択必修】発達障害と教育相談2	30	教, 養, 栄
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	50	教, 養, 栄
	【選択】現代日本の選挙と政治2	30	教
	【選択】プログラミング言語の最新動向	25	教
9月6日(日)	【選択】平安文学教材研究	30	教
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	30	教, 養
	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	25	教
	【選択】数学ー中・高の教材に潜む高等数学	30	教
9月12日(土)	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	30	教
	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	30	教
	【選択】子どもを取り巻く環境（メディア・生活習慣・身体活動等）と保健に関わる話1	50	教, 養, 栄
9月13日(日)	【選択】経済学における数学の応用	30	教
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	30	教
	【選択】子どもを取り巻く環境（メディア・生活習慣・身体活動等）と保健に関わる話2	50	教, 養, 栄
9月26日(土)	【選択】「自由」について考える	30	教
	【選択】野菜の特性に着目して教材を再検討する2	12	教, 栄
	【選択必修】道徳教育の充実1	50	教, 養, 栄
	【選択】天文と気象に関する話題について	21	教
	【選択】絵画（木炭デッサン）制作	12	教
9月27日(日)	【選択】表現を探索ー楽曲の分析を通してー	10	教
	【選択】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在	40	教
	【必修】6)教育の最新事情	80	
	【選択必修】道徳教育の充実2	50	教, 養, 栄
10月3日(土)	【選択】性はなぜあるのか？	25	教
	【選択】中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活	40	教, 養
10月17日(土)	【選択】土壌動物の多様性と機能	20	教
	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→やってみよう！	24	教, 養, 栄
	【選択】消費行動と生活経営	30	教
	【選択】幾何学的不変量に関する概論	20	教

## 令和元年度 管理職候補者研修会 教諭・指導教諭用

◎印（第1回、第10回研修）は、全員参加

2年目以上の者は、第2回～第9回研修から2回以上選択（第1回研修会で参加希望をとる）

回	月日 (曜)	研修内容		会場	講師
		講義等	法規演習		
1	4月 25日 (木)	(午前 半日研修) ◎義務教育課長講話 ◎管理職の心構え(補佐) ◎オリエンテーション		県教育センター (1中・2中)	義務教育課長 義務教育課課長補佐
2	5月 24日 (金)	管理職の職務 香川の教育課題 (人権・同和教育、特別支援 教育、保健体育)	教育法規の概要 服務	県教育センター (1中・2中・5)	事務局職員
3	6月 21日 (金)	教育委員会制度 県教委と市町教委	児童生徒の懲戒 セクシュアル・ ハラスメント 分限・懲戒	県教育センター (大・7) ※7申請	市町教委教育長 市町教委事務局職員 事務局職員
4	7月 24日 (水)	評定者研修 目標管理研修		県教育センター (大・5)	現職校長等
5	8月 2日 (金)	学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導 ・学校組織	講義に法規内容 含む	県教育センター (大・7)	香川大学 毛利・柳澤・津山・ 野村
6	8月 7日 (水)	学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働	講義に法規内容 含む	県教育センター (1中・2中)	香川大学 宮前・柳澤・津山・ 野村・金鋼
7	9月 12日 (木)	企業の組織マネジメント 学校組織マネジメント カリキュラム・マネジメント	情報公開 研修 児童生徒の就学	県教育センター (大・5)	外部講師 事務局職員
8	10月	(午後 半日研修) 学校訪問 小学校部会…10月18日(金) 中学校部会…10月11日(金) 原則各自の校種に参加 ・授業参観、学校経営、教頭の職務、実務		高松市立 仏生山小学校 綾川町立 綾南中学校	訪問校の校長・教頭 事務局職員
9	11月 8日 (金)	免許更新制 学校事務 香川の教育課題 公務災害	教育課程 学校保健・安全 教科書・補助教 材等	県教育センター (大・5)	事務局職員
10	1月 21日 (火)	(午前 半日研修) ◎学校事故への対応 ◎教育長講話 ◎1年間のまとめ	講義(学校事故 への対応)に法 規内容含む	県教育センター (大)	外部講師 教育長 事務局職員

※第1回、第8回、第10回は、半日研修（第1回9:00～12:00、第8回13:30～16:25、  
第10回9:00～12:00）

※第5回、第6回は、香川大学との連携による講義「学校の危機管理研究Ⅰ」として実施。この2回の講義  
内容の個別事例研究を「学校の危機管理研究Ⅱ」として、9月21日(土)、10月26日(土)に県教育  
センターにて開講する。参加は自由。

※県教育センター … 高松市郷東町 587-1

香川県教員等人材育成指標に基づくスクールリーダー養成・研修プログラムの開発について  
～教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」～

学校力開発コース

### 1. プログラム開発の背景・趣旨・目的

社会の進歩や変化が急速に速まり学校を取り巻く環境が変容する中、学校教育の直接の担い手である教員の資質能力の向上を図ることが喫緊の課題となっている。とりわけ、教員の大量退職・大量採用による教員の経験年数の均衡が崩れてきており、地域の教育委員会との密接な連携協力により「チームとしての学校」体制を構築し運営できるスクールリーダー及びミドルリーダーを養成することが教職大学院に求められている。

香川大学教職大学院学校力開発コースでは、「自律的学校経営を目指し、学校における指導的役割を担う学校管理職及び中堅教員を養成する」ことを目的・機能としている。また令和2年4月の「教科領域を含む拡充した教職大学院への移行」に向けて学校力開発コースでは、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を一層強化し、香川県教員等人材育成指標に基づいた危機管理をはじめとする高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成に重点的に取り組むこととしている。さらに、複雑かつ多様化する諸問題を解決するため現職教員を対象とした大学院レベルの高度な研修プログラムを開発・実施することが求められている。

そこで本事業では、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携・協力により、次代を担うスクールリーダーに求められる資質能力を高めるための養成・研修プログラムの開発を行うとともに、学び続ける教員を支えるための教員研修制度の在り方について検討を行っている。

### 2. 教員研修連携プログラムの実施

科目名	実施日時	受講者数 (院生)	学修内容 ※受講者には、「受講証明書」を交付
学校の危機管理研究Ⅰ (集中・1単位)	令和元年 8月2日(金)	81名 (12名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と学校安全の考え方</li> <li>学校の危機管理と積極的生徒指導</li> <li>学校教育とスクールコンプライアンス</li> <li>学校の危機管理に関する基本判例</li> </ul>
	令和元年 8月7日(水)	89名 (12名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と教職員のメンタルヘルスⅠ・Ⅱ</li> <li>学校の危機管理と保護者・地域住民との協働Ⅰ・Ⅱ</li> </ul>
学校の危機管理研究Ⅱ (集中・1単位)	令和元年 9月21日(土)	36名 (11名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と学校組織</li> <li>学校の時に管理と学校組織の信頼</li> <li>イラストで学ぶ学校のリスクマネジメント</li> <li>学校の危機管理といじめ対応</li> </ul>
	令和元年 10月26日(土)	36名 (11名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の危機管理と保護者との連携Ⅰ・Ⅱ</li> <li>コンプライアンスとリスクマネジメントⅠ・Ⅱ</li> </ul>

### 3. 教職大学院と教育委員会が連携した教員研修プログラム開発に係る組織体制

<各部会等の実施状況>

#### ①研修プログラム開発部会

毎月1回、学校力開発コース担当教員6名で定例協議を行っている。

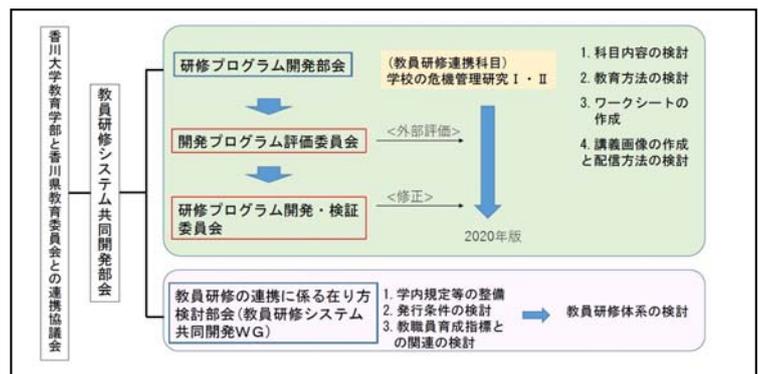
※研修プログラム開発・検証部会は、教員研修連携科目を実施後の評価に基づき、シラバス等の改善を行っている。

(11月以降)

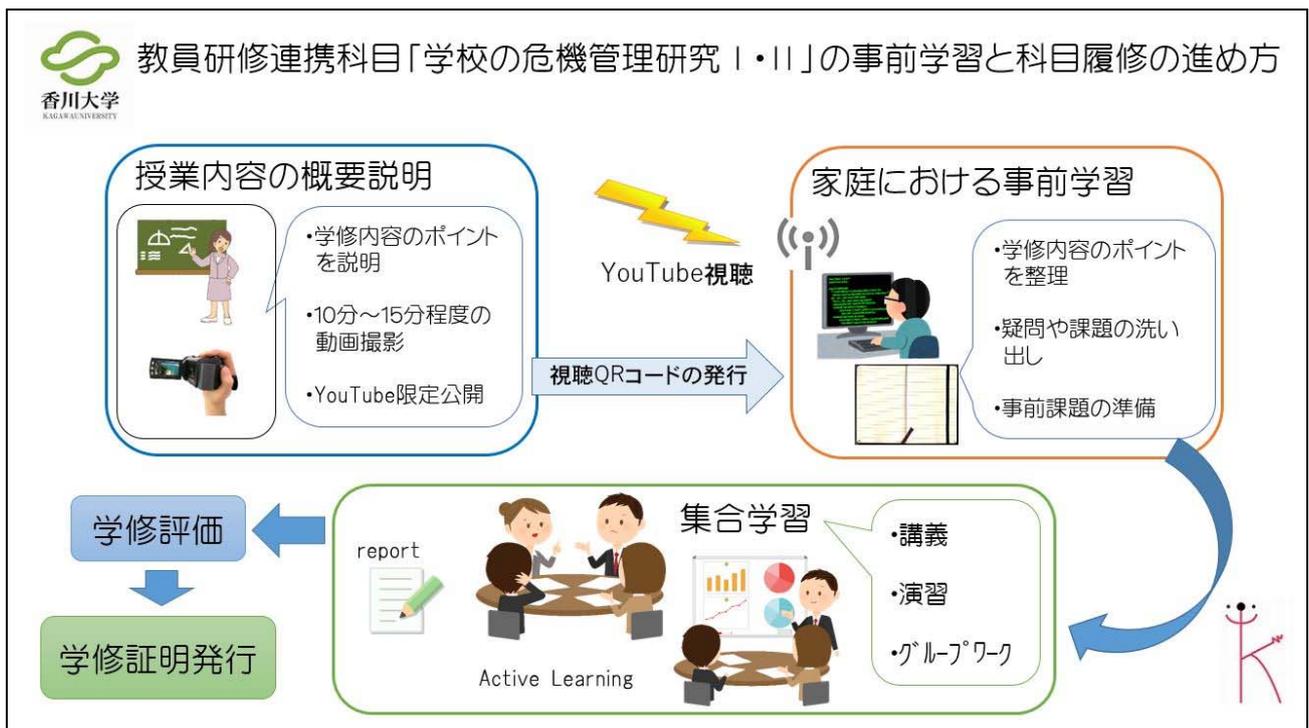
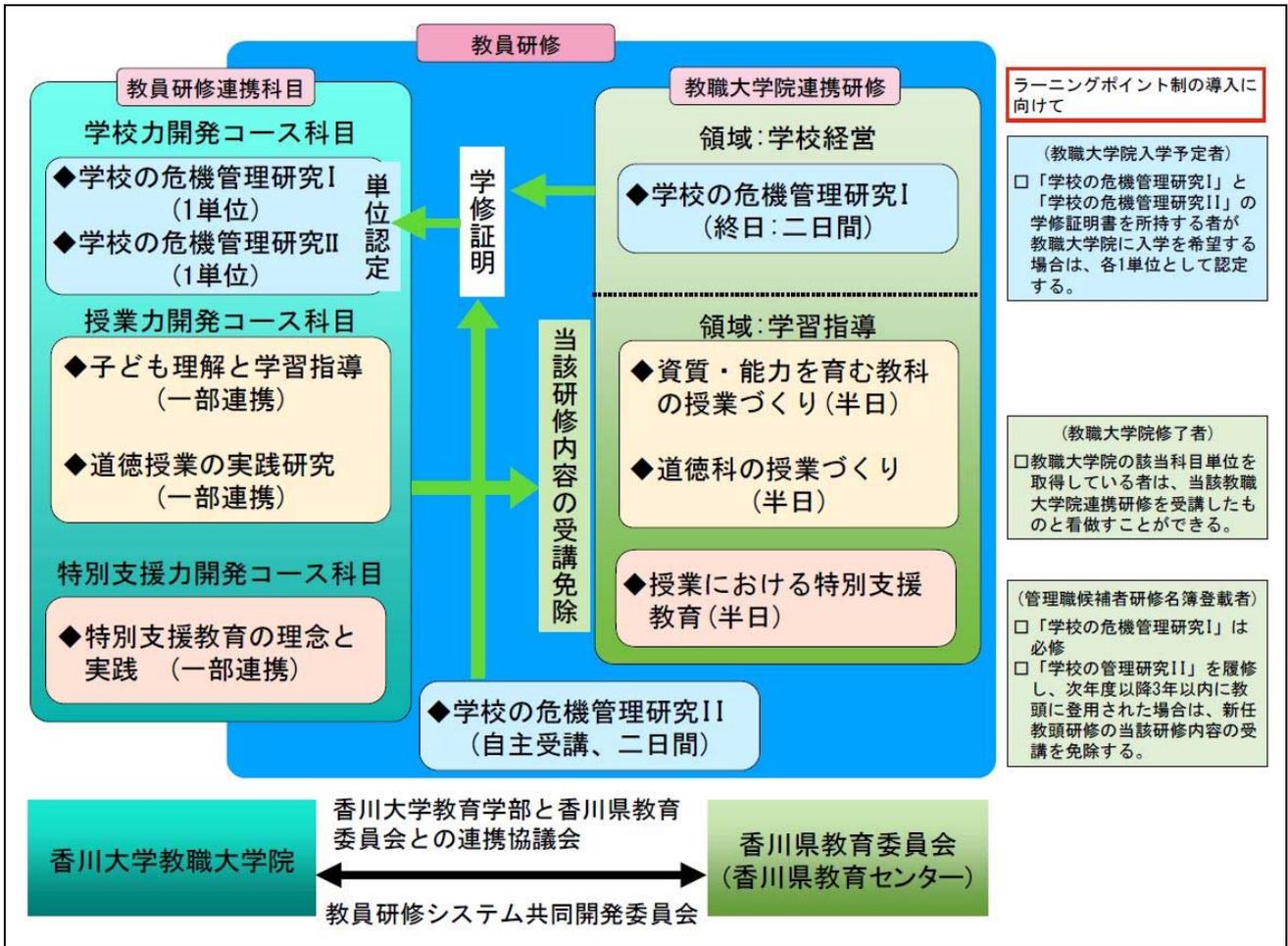
#### ②教員研修システム共同開発WG

教職大学院、香川県教育委員会事務局義務教育課、香川県教育センター教職員研修課、高松市学校教育課及び高松市総合教育センターの各担当で実務的な検討を行い、研修体系や体制、実施方法等について具体的な方策を検討している。

(10月以降毎月1回)



# プログラムの全体概要



<事前学修システム>

## 思考力等の育成モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動等を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立古高松小学校	令和元年 6 月 24 日 (月) 13 : 35 ~ 16 : 30	教授 佐藤 明宏	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
観音寺市立栗井小学校	令和元年 9 月 11 日 (水) 13 : 25 ~ 16 : 30	准教授 松下 幸司	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言
高松市立古高松小学校	令和元年 9 月 25 日 (水) 13 : 35 ~ 16 : 30	准教授 松島 充	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言

### ※ モデル校の研究内容

#### ■ 高松市立古高松小学校

研究主題 「主体的に考え、学び合うことで、「学びのときめきと喜び」にあふれた古高っ子の育成」  
～自ら「問い」をもち、対話することで深い学びへとつながる学習活動の在り方～

#### ■ 観音寺市立栗井小学校

研究主題 「自ら考え 伝え合い 高め合う子どもの育成」  
～プログラミング的思考を生かして～

## 学習習慣形成モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、指導方法の工夫改善に加えて、家庭における生活リズムの改善や家庭学習の習慣化が重要であり、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣や学習習慣を形成することが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習習慣の形成に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、学校での授業や活動が学習習慣の確立につながる指導及び家庭や地域との連携の在り方等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

令和元年度はなし

## 学習意欲向上モデル校事業

### 1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習意欲の向上に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、興味・関心を生かし、学習意欲を喚起する授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

### 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

### 3 モデル校への派遣実績

令和元年度はなし

## アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

## 1 趣旨について

子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶか」という学びの質を重視し、子供たちの「主体的・対話的で深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」（以下、アクティブ・ラーニング）を実現する必要がある。を実現する必要がある。

本事業は市町との連携・協力の下、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を先導的に研究するために、モデル校を指定するものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に向けて、言語活動の充実、情報活用能力の育成、学習評価の充実等の研究を行い、その成果を普及することで、県下の児童生徒の資質・能力の向上に資するものとする。

## 2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、香川の教育づくり発表会・香川県教育センター発表会を通して研究成果の普及・啓発に努める。また、授業の積極的な公開に努める。
- (3) モデル校は、香川県教育センターの調査研究事業に協力する。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などを行い、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、必要に応じて香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、モデル校に指導主事を継続的に派遣して適切に支援したりモデル校の取組を評価したりする。

## 3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立古高松中学校	令和元年8月22日（水） 8：00 ～ 10：00	准教授 岡田 涼	学習指導の充実に向けた講話
	令和2年1月16日（木） 14：15 ～ 16：25		研究授業後の討議会における指導・助言

## ※ モデル校の研究内容

- 高松市立古高松中学校 （研究主題）言語を介して能動的に関わる力の育成

## 幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

### 1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
2	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	片岡 元子	香川大学教育学部教授 幼児教育
4	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
5	金子 之史	香川大学名誉教授 理科教育

### 2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

### 3 派遣実績（7市町20園）

	園 名	訪問日時	研修内容	支援員
1	宇多津町立宇多津幼稚園	R1年6月14日(金)	生き生きと遊びつながり合う子どもの育成	片岡元子先生
2	丸亀市立城辰幼稚園	R1年6月17日(月)	非認知能力を高めるために必要な環境構成や支援	金子之史先生
3	まんのう町立琴南こども園	R1年7月2日(火)	幼児理解と環境構成のポイント	松井剛太先生
4	高松市立大町幼稚園	R1年7月3日(水)	職員集団としての在り方	松本博雄先生
5	坂出市立川津幼稚園	R1年7月9日(火)	遊びの中の幼児期に育みたい資質・能力の捉え方	金子之史先生
6	坂出市立林田幼稚園	R1年7月11日(木)	主体的な遊びの中で見られる学び	金子之史先生
7	高松市立香南こども園	R1年7月12日(金)	ねらいや経験内容の適正さ	吉川暢子先生

8	丸亀市立郡家こども園	R1年9月30日(月)	連続性を意識した幼小連携の取組	松本博雄先生
9	丸亀市立城坤幼稚園	R1年10月1日(火)	幼児理解に基づいた評価の在り方	片岡元子先生
10	まんのう町立四条こども園	R1年10月2日(水)	育ち合える職員集団をめざした園経営	松本博雄先生
11	高松市立一宮幼稚園	R1年10月4日(金)	幼児の主体性を育む環境構成や支援	金子之史先生
12	丸亀市立飯山こども園	R1年10月8日(火)	評価や記録の取り方	金子之史先生
13	東かがわ市立丹生こども園	R1年10月15日(火)	遊びの中での子どもの発達や育ちの捉え方	金子之史先生
14	まんのう町立満濃南こども園	R1年10月16日(水)	個に応じた適切な援助	片岡元子先生
15	多度津町立多度津幼稚園	R1年10月23日(水)	若年教諭の保育力を高める指導	吉川暢子先生
16	丸亀市立あやうたこども園	R1年10月24日(木)	子どもが主体的にかかわれる環境づくり	金子之史先生
17	高松市立木太幼稚園	R2年1月15日(水)	接続を意識した幼小連携の在り方	松本博雄先生
18	高松市立浅野幼稚園	R2年1月20日(月)	小学校とのスムーズな連携	松井剛太先生
19	高松市立三溪幼稚園	R2年1月23日(木)	個別の支援とインクルーシブ	松井剛太先生
20	高松市立国分寺北部幼稚園	R2年1月31日(金)	幼児の主体性を育む環境構成や手立て	吉川暢子先生

## 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

### 道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳科（道徳の時間）を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

#### 趣旨

道徳教育は、道徳科（道徳の時間）を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実とともに道徳科（道徳の時間）の指導の充実が求められている。

小学校は平成 30 年度、中学校は平成 31 年度からの道徳の教科化を踏まえ、生命を大切にする心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳科（道徳の時間）の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



#### 「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切にしていける意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として希望する小・中学校に派遣し、体験的、感動的な道徳教育を展開する。
  - ◆令和元年度 159 校に派遣予定（6～2月）

#### 道徳教育指導力向上研修

- 道徳の教科化を踏まえ、指導の工夫や評価の在り方について研修を深めるとともに、各学校における道徳教育の推進を図る。
  - ◆令和元年 8 月 23 日（金）、県教育センター  
講話：齋藤嘉則教授
  - ◆平成 30 年 10 月 17 日（木）、24 日（木）、県教育センター  
講話：植田和也教授

#### 道徳教育地域支援事業

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を児童生徒に配布することで、道徳の時間における積極的な活用を推進する。
    - ◆9月に配布
  - 道徳教育研究推進校における実践研究（平成 30 年度研究推進校 高松市立国分寺南部小学校、善通寺市立西中学校、三豊市立詫間中学校、土庄町立土庄小学校）
    - ◆第 1 回推進会議（令和元年 5 月 9 日）、第 2 回推進会議（令和 2 年 2 月 3 日）での指導講話：植田和也教授

## 香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科）及び質問項目の内容検討

## 1 委 員

No.	氏名	役職 分野
1	佐藤 明宏	香川大学教育学部教授 国語教育
2	松島 充	香川大学教育学部准教授 数学教育
3	岡田 涼	香川大学教育学部准教授 心理学
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授 応用計量分析

## 2 分析検討会議

日 時	主な内容
8月19日（月）	○令和元年度全国学力・学習状況調査の報告書について
1月14日（火）	○令和元年度香川県学習状況調査の報告書について

## 「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業」

### ■実証研究委員会■

【目的】 本事業の円滑な実施や実証協力校の実践に関する情報交換及び研究成果の普及等の取組を支援する。

【場所】 香川県教育センター

【日時・内容】 年間4回（今年度は残り4か月のため、月に1回）

#### 第1回 令和元年12月27日(金) 13:00～15:30 会場【3F－第2研修室】

会議内容 ・実証研究委員の紹介 ・研究の内容と方向性 ・実証協力校と提携企業 等

参加者 ・実証研究委員

#### 第2回 令和2年1月30日(木) 14:30～17:00 会場【4F－第1・2中研修室】

会議内容 ・実証研究の内容 ・実証協力校の現状 ・企業との連携 等

参加者 ・実証研究委員 ・提携企業

#### 第3回 令和2年2月26日(水)

##### ◆「会議」 14:00～14:45 会場【3F－第2研修室】

会議内容 ・実証研究の現状 ・実証協力校の現状 等

参加者 ・実証研究委員 ・提携企業

##### ◆「公開講演」 15:00～16:30 (90分) 会場【5F－大研修室】

講演講師 早稲田大学 先進理工学部応用物理学科 教授 澤田 秀之

参加者 ・実証研究委員 ・提携企業 ・県内の公立小中高の教員（公募）〔実証協力校を含む〕

#### 第4回 令和2年3月18日(水)

##### ◆「会議」 14:00～14:45 会場【4F－第1・2中研修室】

会議内容 ・実証協力校の紹介 ・来年度の研究計画 等

参加者 ・実証研究委員 ・提携企業 ・実証協力校代表者

##### ◆「公開講演」 15:00～16:30 (90分) 会場【5F－大研修室】

講演講師 公立はこだて未来大学 副理事長 未来A I 研究センター長

システム情報科学部 複雑系知能学科 教授 工学博士 松原 仁

参加者 ・実証研究委員 ・提携企業 ・県内の公立小中高の教員（公募）〔実証協力校を含む〕

## ■実証研究委員■

- ・泰山 裕 (鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授)
- ・林 敏浩 (香川大学創造工学部 教授)
- ・横山 佳充 (香川大学経済学部 教授)
- ・松下 幸司 (香川大学教育学部附属教職支援開発センター 准教授)
- ・佐藤 明宏 (香川大学教育学部 教授)
- ・松島 充 (香川大学教育学部 准教授)
- ・岡田 涼 (香川大学教育学部 准教授)
- ・三崎 幸典 (香川高等専門学校電子システム工学科 教授)
- ・金澤 啓三 (香川高等専門学校情報工学科 教授)
- ・岩本 直也 (香川高等専門学校電子システム工学科 講師)
- ・宮崎 貴大 (香川高等専門学校情報工学科 助教)
- ・山下 昭史 (一般社団法人みとよA I 社会推進機構 代表理事)
- ・小玉 祥平 (三豊市教育委員会事務局学校教育課 指導官)
- ・井元 多恵 (香川県教育委員会教育次長 【座長】)
- ・浅野 哲臣 (香川県政策部政策課 政策企画グループ 副主幹)
- ・北村 卓司 (香川県政策部情報政策課 システム基盤グループ 専門監)
- ・高尾 明博 (香川県教育委員会事務局義務教育課 課長補佐)
- ・小山 圭二 (香川県教育委員会事務局高校教育課 課長補佐)

## ■実証協力校長■

- ・渡邊 良弘 (高松市立新番丁小学校長)
- ・三木 克彦 (小豆島町立苗羽小学校長)
- ・有岡 俊文 (綾川町立滝宮小学校長)
- ・吉田 和弘 (坂出市立加茂小学校長)
- ・福岡 和信 (三豊市立詫間小学校長)
- ・黒川 統夫 (高松市立屋島中学校長)
- ・淀谷 圭二 (高松市立古高松中学校長)
- ・安藤 孝泰 (善通寺市立東中学校長)
- ・小林 理昭 (善通寺市立西中学校長)
- ・久保田員生 (三豊市立詫間中学校長)
- ・佐藤 良二 (香川県立高松西高等学校長)
- ・鶴岡 英作 (香川県立丸亀高等学校長)
- ・多田 幸平 (香川県立観音寺第一高等学校長)

### キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

#### ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

#### イ 内容

##### (1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の主體的な取組を促進する。

##### (2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

#### ウ 香川大学との連携について

教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な学習の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

## 高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

### 1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

### 2 授業の公開・開講状況・受講状況

令和元年度の第 1 学期には、「経済学入門 A」「経済学入門 B」「経営財務論」「グローバル時代の法と国際人権」「政治学入門」「歌唱法基礎 A」の 6 科目が、第 2 学期には「哲学 A」「金融論」「人間論」「瀬戸内海の環境と保全」「経営戦略論」の 5 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 など高校の授業終了後の時間帯で行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業に 165 名が受講した。

### 3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

### 4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入が望ましい。

### 5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

## 学生ボランティア派遣事業

## 1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

## 2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

## ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

## イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

## ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

## 3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

## 学生ボランティア派遣状況（R元.12.10現在）

	H30年度						R元年度					
	登録			派遣			登録			派遣		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2年	7	19	26	7	19	26	9	18	27	9	18	27
3年	6	15	21	6	15	21	6	16	22	6	16	22
4年	3	14	17	3	14	17	2	8	10	2	8	10
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	48	64	16	48	64	17	42	59	17	42	59

## 派遣先

	H30年度			R元年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	30	25	5	29	26	3
中学校	0	0	0	3	1	2
教支援セ	2	1	1	3	1	2
その他	3	3	0	3	3	0
計	35	26	6	38	31	7

派遣要請に対する派遣率 74.2%

派遣要請に対する派遣率 81.6%

豊かな人権感覚を育てる事業

「親子で学ぶ 出会い・ふれあい・発見隊」学生ボランティア

1 目的

- 県内の小学生が、親子で「出会い・ふれあい・発見隊」を結成し、人権尊重社会の実現に向けて努力している人々と出会い、そこでの豊かな体験を通して、人権感覚を高め、自分の生き方を豊かに創り上げていくための力を身に付けさせる。
- 県内の教員をめざす学生（学生ボランティア）が、「出会い・ふれあい・発見隊」と一緒に活動することで、人権教育の指導内容や方法についての資質の向上を図る。

2 主催 香川県教育委員会事務局人権・同和教育課（以下「人権・同和教育課」）

3 参加及び申し込み手続き

（1）参加対象者

- ① 出会い・ふれあい・発見隊
  - ・県内小学校に在籍する児童（4～6年生）とその保護者（30組）
- ② ボランティア参加者
  - ・教員をめざす学生のうち参加を希望する者

（2）申し込み手続き

- ・参加を希望する者は、人権・同和教育課に応募用紙を提出する。当課より 電話（087-832-3780）にて参加確認をとり、登録とする。
- ・応募のあった学生は、原則として参加者とするが、応募状況によっては人権・同和教育課において調整を行う場合がある。

4 活動日時・場所・内容等（令和元年度）

- ① 10月19日（土） かがわ総合リハビリテーションセンター（現地集合）  
< 障害者スポーツを体験しよう！ >
- ② 11月 9日（土） 国立療養所大島青松園（高松港集合）  
< 入所されている方と交流しよう！ >

## 第 18 回未来からの留学生を終えて

実行委員長 上野耕平

この度、第 18 回未来からの留学生を令和元年 10 月 13 日（日）に実施致しました。台風の接近により当初は開催が危ぶまれましたが、当日は晴天のもと多くの児童・生徒及びそのご家族にご来場頂きました。本年の未来からの留学生では、国語や社会などの各領域の他、学内サークルが企画した 26 に及ぶ講座を開講しておりました。26 講座は前もって申し込みが必要な事前申込型講座（13 講座）と、当日参加が可能な自由参加型講座（13 講座）に分かれて例年開講されています。本年も保護者にパンフレットの開講時間を確認しつつ様々な講座に自ら進んで参加する児童の姿が、学内のあちこちで見られました。

「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな役目を担う一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶ貴重な機会でもあります。各領域からの報告には、「どのようにしたら子ども達に分かりやすく伝えられるのかを考え、実際にうまく伝わった時はとても嬉しかった」、「さかさワールドを通じて、子どもの目線に立つことの大切さを学んだ」など、教えることの喜びと共に子どもを理解する機会となったことを示す感想が認められました。楽しく参加する児童や保護者の皆様のお姿、そしてこうした学生の感想からは、本年度の未来からの留学生も、ひとまずその活動目的を果たし得たのではないかと思います。

最後に、本年度の活動は香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部の事務職員、各領域担当の教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施にご尽力頂きましたことに深く感謝しますと共に、来年度以降の活動につきましてもどうかご支援頂けますようお願い致します。



## 令和元年度特別支援教育コーディネーター協議会

## 1 目 的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

## 2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	8月1日	全県	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	365名
県立	11月8日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	40名
地 域 別	9月19日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	35名
	9月27日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	52名
	10月8日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	55名
	10月17日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	25名
	10月29日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	18名
	11月22日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	104名

## 3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
8月1日	自立と社会参加に向けて	教授 坂井 聡
11月8日	高等学校における支援	教授 小方 朋子
9月19日	知的障害・発達障害の定義と診断について	教授 惠羅 修吉
9月27日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	准教授 中島 栄美子
10月8日	学校支援体制と外部機関との連携	教授 宮前 義和
10月17日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平
11月22日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武藏 博文

## 香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。令和元年度の主な取組みは以下のとおりである。

### ■ 受講者

#### (1) 学生

教材 CST=24 名（継続 17 名、新規 7 名）

令和元年度修了予定 3 名

#### (2) 現職教員

教材 CST=実施なし

### ■ 教材 CST 研修会

実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2019 年 5 月 15 日	教材紹介 参加学生 2 名	附属坂出中学校
2	2019 年 6 月 20 日	教材紹介 参加学生 0 名	附属坂出中学校
3	2019 年 11 月 21 日	教材紹介 参加学生 6 名、学生による発表 2 件	附属坂出中学校
4	2019 年 12 月 13 日	教材紹介 参加学生 11 名、学生による発表 2 件	香川大学教育学部
5	2020 年 2 月 20 日	教材紹介	附属坂出中学校
6	未定	教材紹介	香川大学教育学部
7	未定	教材紹介	香川大学教育学部

## 英語ラボ、道徳ラボの取組

植田 和也

令和元年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業 (NITS 独立行政法人教職員支援機構)

## 今年度のテーマ

「教科化対応ラボによる教員の資質向上～英語ラボ、道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～」

2019 年度の中学校道徳科の全面実施、2020 年度の小学校外国語科（英語）スタートへの対応が求められている。本プログラムの教科化対応ラボ研修会を通じて、具体的な各学校や教員の取組について、不安や悩みの軽減を図るとともに、各教員の資質向上につながる研修内容を香川県教育センターとの連携・協働で提供していく。

その際に、小学校英語では評価が大きな悩みや不安として、どのように取り組むか、どのように指導の改善に生かすのか、課題として推察される。また、道徳ラボにおいては、これまでの取組を校内により広めるために校内研修を企画する資質能力を育む内容に視点をあてて研修を実施する。さらに、各教員・大学・附属学校・行政等、互いの何でも聞きあえるネットワークづくりの構築にも寄与したい。

## ① 研修の実施内容（実施時期、対象人数、会場、日程、内容等）

研修名 日時	講師、提案者等 (敬称略)	人数	会場	内容・日程	備考
道徳ラボ研修会Ⅰ 令和元年 6 月 15 日	吉原聖人、山本健太 植田和也、齋藤嘉則 坂井親治、西尾洋之	65 人	香川大学	校内研修の充実と実 際の取組	
英語ラボ研修会Ⅰ 令和元年 9 月 7 日	鈴木 渉、清水由美 中住幸治、	55 人	香川大学	小学校英語指導と評 価－観点別学習状況 の評価の実際－』	
道徳ラボ研修会Ⅱ 令和元年 9 月 14 日	横山利弘、植田和也	87 人	香川県教育 センター	校内研修を生かして 道徳科の授業改善	
道徳ラボ研修会Ⅲ 令和元年 12 月 21 日	七條正典 植田和也 山本木ノ実、 小島克明、原 洋子	111 人	香川大学	校内研修：特別支援 教育と道徳教育	
英語ラボ研修会Ⅱ 令和 2 年 2 月 8 日	鈴木 渉、清水由美 中住幸治、伊瀬吏沙	31 人	香川大学	小学校英語指導と評 価－観点別学習状況 の評価の実際－』	

## 今年度の作成予定教材・・・校内研修、個人研修等で活用できる教材を作成中

今年度の英語ラボ、道徳ラボ各研修会の内容を生かして、校内研修、個人研修等で活用できることを想定して教材を作成中である。

令和 2 年 2 月末発刊予定      3 月中旬配布予定

「小学校英語評価資料集」

「道徳ラボ－校内研修の充実－」

『今までの校内研修、個人研修で活用できる教材作成と配布』



平成 28 年度



平成 29 年度



平成 30 年度

【平成 30 年度作成の DVD 教材の内容】

四国道徳ラボ 道徳研修DVD教材 質の高い道徳科の授業づくりをめざして

- 1.挨拶・説明
  - 香川大学教職大学院 教授 有馬道久、教授 植田和也
- 2.道徳科の授業における課題
  - 香川県教育センター  
主任指導主事 浅野正敏、指導主事 芳我清加  
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則
- 3.授業づくりI 基礎編
  - 香川大学教職大学院 教授 植田和也
- 4.教材分析のポイント
  - 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則
- 5.発問づくりについて
  - 香川大学教職大学院 教授 植田和也
- 6.多様な指導方法について
  - 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則
- 7.道徳科の評価について
  - 香川大学教職大学院 教授 植田和也
- 8.配慮の必要な子どもへの支援、指導
  - 香川大学教職大学院 准教授 山本木ノ実
- 9.配慮の必要な子どもへの具体的な支援の事例
  - 大学院生 廣瀬美由紀(高松市立川島小学校 教諭)
- 10.授業づくりII チャレンジ編
  - 情報モラルの授業について  
香川大学教職大学院 准教授 金網知征
  - 役割演技について  
香川大学教職大学院 教授 植田和也
  - 道徳ノートの工夫  
香川大学教職大学院 准教授 清水頭人(附属坂出小学校 教諭)

- 11.インタビュー編
  - 「質の高い授業づくりのために大切にしてほしいこと」
  - 京都産業大学 教授 柴原弘志  
高知学園短期大学 教授 田邊重任  
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 植田和也
  - 高知大学教職大学院 准教授 森 有希  
福岡県新宮町立新宮北小学校 主幹教諭 木下美紀  
[聞き手] 香川大学教職大学院 教授 植田和也
- 12.子どもが主体的に学ぶ道徳科の授業づくりをめざして
  - 高松大学 教授 七條正典
- 13.管理職の皆様へ
  - 香川大学教職大学院 特命教授 野村一夫
  - 香川大学教職大学院 特命教授 津山勝義
- 14.まとめ
  - 香川大学教職大学院 教授 齋藤嘉則
  - 香川県教育委員会事務局義務教育課  
主任指導主事 中田祐二



令和元年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について  
月日の欄の※印は別添資料あり

## 1. 大学教員による指導等

## (1) 出前講座

回	月・日	学年	担当講師	講義のタイトル
1	5月10日	1年生	植田和也 先生	子どもとかかわり、自分を磨く
2	5月31日	3年生	山神真一 先生	一生勉強、一生青春について考える
3	9月11日	2年生	片岡元子 先生	幼児期の教育～遊んで大きく育つ～
4	9月20日	3年生	上野耕平 先生	体育に活かすスポーツ科学
5	9月27日	3年生	松島 充 先生	数学教育について
6	10月4日	1年生	有馬道久 先生	グループ研究の仕方
7	10月18日	1年生	恵羅修吉 先生	顔を見る、顔から見る(心理学入門)
8	11月15日	2年生	小方朋子 先生	特別支援教育について
9	2月5日	1年生	北林雅洋 先生	教育の目的について

## (2) グループ研究指導

回	月・日	学年	担当講師	内容
1	4月19日※	3年生	野崎武司 先生、小方朋子 先生	研究発表会
2	1月17日	1年生	小方朋子 先生	1年生研究発表会
		2年生	小方朋子 先生	中間発表会
3	2月28日	1・2年生	未定	1年間のまとめ発表

この他、春季休業中に、生徒は各研究室において指導を受けている。

## (3) 香川大学訪問

月・日	学年	担当講師	内容
2月14日	1年生	毛利猛先生、笠潤平先生、小方朋子先生	施設見学、大学説明、講義の聴講

## 2. 附属学校における活動

学年	訪問先	回	月・日	内容
1年生	附属坂出小学校	1	5月31日	自己紹介、給食、遊び等
		2	7月5日	図画工作、生活科、音楽、外国語等
		3	9月13日※	ロング昼休みでの絵本読み聞かせ等
		4	11月15日	「附ッザニア(お仕事体験)」の手伝い
		5	1月31日	授業補助、給食・清掃指導等
2年生	附属坂出中学校	1	7月4日	総合学習CANの支援活動
		2	10月16日※	総合学習CANの発表会の審査
	附属坂出幼稚園	1	5月17日	支援活動①
		2	10月28日※	支援活動②
		3	1月31日	支援活動③
附属特別支援学校	1	12月6日※	訪問・学校説明・授業見学	
3年生	附属坂出小学校	1	10月3日	教育実習生の研究授業の見学

## 教育問題に関する「グループ研究発表会」 を行いました（3年）

4月19日（金）教育創造コースの3年生が、グループ研究発表会を行いました。3年生は、昨年11月下旬から4人1班で教育問題に関するグループ研究を行ってきました。今年の1月に中間発表会を行い、また3月には香川大学教育学部に出向き、大学の先生方からアドバイスをいただき、研究を進めてきました。半年をかけた研究の、集大成発表会です。



教育創造コースの1・2年生も見学するため、広い音楽ホールをお借りしました。

先輩方の堂々とした発表に、後輩たちは来年の自分の姿を重ねているのでしょうか。

班	研究テーマ一覧（3年生）
1	学童保育の現状と改善点
2	教育とICT教育の情報化の有益性
3	子どもの貧困と国の対応策と奨学金問題
4	現役教師の感じる教育問題についての研究
5	香川県の待機児童問題の現状と対策
6	子どもと携帯電話の関わり方
7	小学校での食育指導
8	自己肯定感と習い事の関連
9	子どもの貧困と教育格差
10	子どもの活字離れ



プレゼンテーションソフトを使った、各班4分間の発表です。深い研究内容を、論理的に分かりやすく説明する力が問われます。



研究発表の最後に、東条君（3年）、植村君（2年）が新入生へ励ましの言葉を述べました。また、松永君（1年）が教育創造コースでの活動に対しての決意を表明しました。



香川大学教育学部副学部長の野崎先生より、研究発表会についての講評をいただきました。ようやく1～3年生のすべてが揃った「教育創造コース」を、今年度もご指導の程よろしく申し上げます。

## 香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動② を実施しました

10月16日、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出中学校において、教育創造コースの2年生が、総合学習CAN「支援活動②」を行いました。本日は、総合学習の発表会の審査のために訪問しました。



附属坂出中学校では、学年の枠を超えたクラスター(チーム)ごとに探究テーマを決めて取り組んでいます。

中学生は、発表をする班と審査をする班に分かれて、取り組んでいます。附属坂出小学校からも、児童が見学に来ていました。

はきはきした発表態度が好印象!



本物(実物)のサンプルもあり、分かりやすかった。

資料を詳細に読み取り、そこから現象を発見し、しっかりと研究できていた。



とても実用的な研究で、なにより根拠がはっきりとして分かりやすかった。

実験・調査・試作が十分に行われている研究発表がたくさんあり、感心させられました。坂高生の選んだ最優秀クラスターには、後日表彰にお伺いします。

# 香川大学教育学部附属坂出幼稚園で 支援活動② を実施しました

10月28日、香川大学教育学部附属坂出幼稚園において、教育創造コースの2年生が「支援活動②」を行いました。前回の5月は1時間の支援活動でしたが、今回は2時間の活動です。



積み木の上の橋を、車が通れるかな？

よいしょ！  
よいしょ！  
頑張れ！！



それ～～



手を離すよ～ できるかな？



園児 VS 坂高生の  
ラグビー対決！  
最初は本気で対  
決していないと、  
園児から怒られ  
ました。

本気で一緒に遊ぶことの大切さを学びました。  
ありがとうございました。



# 香川大学教育学部附属特別支援学校へ 訪問・見学に行きました

12月6日、坂出市内にある香川大学教育学部附属特別支援学校に、教育創造コースの2年生が訪問しました。大西副校長先生から、学校の概要や生徒への効果的な支援についてご説明いただいた後、小学部・中学部・高等部の各部主事先生の案内で授業参観をさせていただきました。



附属特別支援学校は、小学部・中学部・高等部と幅広い年代の児童・生徒が通っています。



高等部「生活単元学習」



タイムカードを使って自己管理をするなど、生徒が自立するための工夫が随所に見られます。



中学部「保健体育」



中学部「美術」

靴の洗い方も画像を使って理解しやすいように工夫がされています。



小学部「チャレンジタイム」



一人ひとりが、自分のできることを増やすため、活発に取り組んでいました。

質問タイム 冬休みの宿題もあるのでしょうか？

## 遠隔授業指導・遠隔教育相談

通常学級における授業で、特別な支援を必要とする子どもたちへの必要な支援を検討するため、360°カメラで対象となる授業をビデオ撮影し、専門家による助言を受けることができるようにする試みである。

附属坂出小学校と県内の小学校が連携して、附属坂出小学校で実施した授業データをもとに、授業づくりについて検討するものである。

本試みでは、附属坂出小学校を会場にして、県内の小学校に案内し、特別支援教育からの観点を中心に授業についての考え方を提案した。360°カメラで撮影した授業データを用いることで、臨場感ある全天球映像を視聴・確認しながら授業検討ができたので、子どもたちへの接し方や教え方などについて、教職員への確にアドバイスすることが可能になったと考えている。

また、本取り組みでは、テレビ会議システムを通して東北大学の川崎研究室と、そこに内地留学している小学校の教員の参加も得ることができた。テレビ会議での会場とのやり取りも実施し、それらのやりとりについて、参加者からは高い評価を得ることができた。これは、遠隔の授業相談による授業改善の可能性を示唆するものであり、今後も機会を設けて実施していきたいと考えている。そのためにも、今後、県教育委員会と連携をより深めていきたいと考えている。また、附属坂出小学校の教員による遠隔授業相談ができるようにすることは、附属学校教員の授業スキルを地域の学校教員に広めることになり、そのコストも大きく削減することができるようになる。附属学校教員の授業スキルは高いことから、地域の公立学校にそのスキルを還元する機会を多くすることができ、地域貢献の場になることも期待される。そのためにも、今後この取組を広げていきたいと考えている。

さらにテレビ会議を活用、教育センター指導主事との困難事例等に関する検討と特別支援教育の観点からの学校のあり方について相談会を実施もすることができた。教育センターには、困難な事例が多く寄せられているが、それらを解決するためには、教育相談担当の指導主事のスキルアップは必須である。特に、特別支援教育の観点から相談に応じることができる指導主事はまだ少ないことから、その負担も大きくなると思われる。このようなときに、テレビ会議を通して教育センター指導主事が相談できるようにすることは、心理的負担を軽減することになり、同時に専門性も高めることができる。



テレビ会議システムを使った授業検討会

正面にあるモニターにテレビ会議による参加者とビデオデータの画像が映し出され、それをもとに授業検討が実施される。直接参加の教員は、香川県内の小学校の教員である。



教育センター指導主事とのテレビ会議システムを活用した研修会

附属坂出小学校の校長室と県教育センターの相談室をつなぎ、教育相談での困難な事例等について、個別の事例が特定されないようにした上で、助言を受けることができるようにしている。

## 覺書・要項

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

### (目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

### (実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

### (研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

### (連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力を当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

### (連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

### (経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

### (補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長  
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長  
惣 脇 宏

## 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

### 1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

### 2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

### 3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

### 4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

### 5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

### 6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

### 7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

#### 附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

#### 附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

就職専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

理事

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長